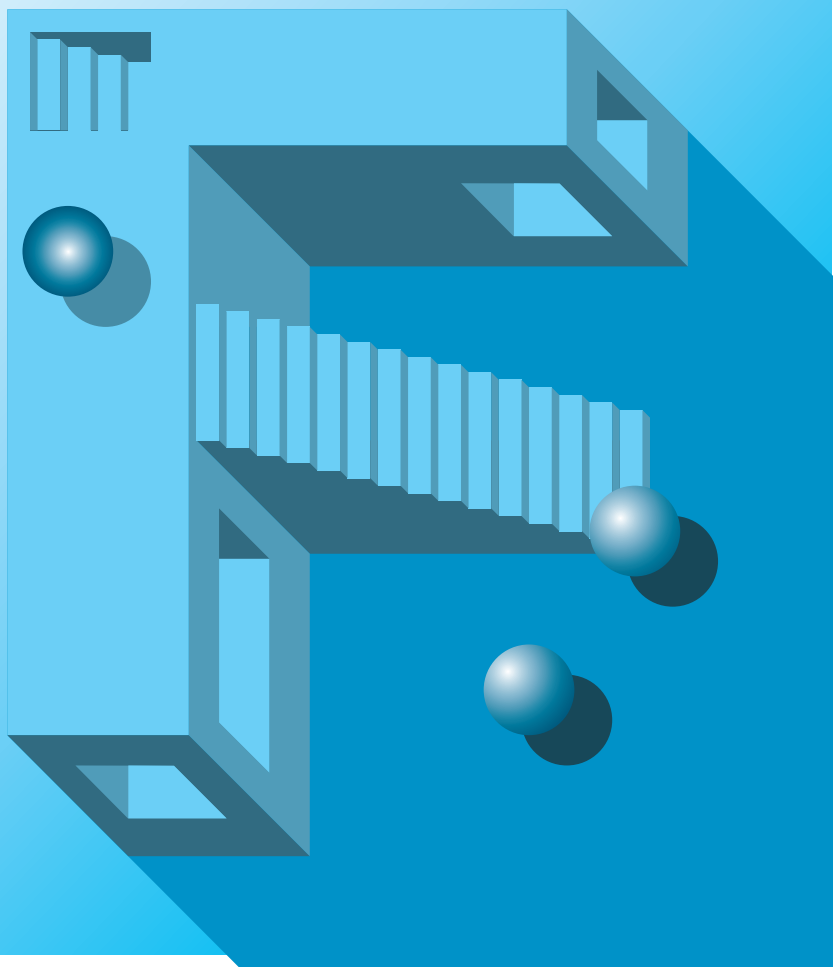




B1FH-6581-01



PRIMERGY WebServer (GP52TCL83)

取扱説明書

FUJITSU

ごあいさつ

このたびは、弊社の PRIMERGY（プライマジー）WebServer をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

PRIMERGY WebServer は、Microsoft® Windows® Powered を用いた Web サーバに特化した、専用サーバです。

本サーバは、PRIMERGY TS225 を基に構成されており、一部のソフトウェアにおいてモデル名等が「PRIMERGY WebServer」ではなく「PRIMERGY TS225」と表示される場合があります。また、接続するオプションの取扱説明書に「PRIMERGY WebServer」が記述されていない場合には、「PRIMERGY TS225」に関する記述をご参照ください。

ただし、本サーバに接続できるオプション製品の種類／数は「PRIMERGY TS225」とは異なりますので、ご注意ください。

本書では、PRIMERGY WebServer の特長、本サーバの設定を容易にする事前設定ツール「DesignMagic for WebServer」を使ったセットアップ方法や、Web インタフェースによる設定方法について説明しています。

本書が皆さまのお役に立つことを願っております。

2001 年 8 月

- Microsoft、Windows、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標である可能性があります。
- 本書に記載されている各製品は、各社の著作物です。
- Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2001

■略称について

本書では、製品名を次のように省略することがあります。

製品名	略称
Microsoft® Windows® 95 Operating System	Windows 95
Microsoft® Windows® 98 Operating System	Windows 98
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version4.0 Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version4.0	Windows NT
Microsoft® Windows® 2000 Server Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000
Internet Explorer 5.01 Internet Explorer 5.5	Internet Explorer、IE
Microsoft® Internet Information Server 5.0	IIS 5.0、IIS

安全にお使いいただくために

本書には、本サーバを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本サーバをお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解された上で本サーバをお使いください。

また、本書は、本サーバの使用中にいつでも参照できるよう大切に保管してください。

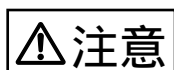
安全上のご注意

本装置およびそのオプション装置を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。



△ で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。



⊘ で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が示されています。



● で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が示されています。

■ 万一、異常が発生したとき



- 万一、装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が消えるのを確認して、担当営業員または担当保守員に修理をご依頼ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 異物（水・金属片・液体など）が装置の内部に入った場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、担当営業員または担当保守員にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 本体の取り扱いについて



- 装置を勝手に改造しないでください。火災・感電の原因となります。
- 装置本体のカバーや差し込み口についているカバーは、オプション装置の取り付けなど、必要な場合を除いて取り外さないでください。
内部の点検、修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。

禁 止



- ディスプレイに何も表示できないなど、故障状態で使用しないでください。故障の修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の恐れがあります。
- 開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 装置の上または近くに「花びん・植木鉢・コップ」などの水が入った容器、金属物を置かないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 殺虫剤などを使って害虫駆除を行う場合には、サーバ本体を停止し、ビニールなどで保護してください。
- 湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に置かないでください。故障・火災・感電の原因となります。

水 気



- 本体に水をかけないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 風呂場、シャワー室などの水場で使用しないでください。故障・火災・感電の原因となります。

プラグ



近くで雷が発生したときは、電源ケーブルやモジュラケーブルをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては装置が破壊され、火災の原因となります。

禁 止



- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。
- 電源ケーブルや電源プラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

指 示



電源プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。そのまま使用すると、火災の原因となります。



アース



アース接続が必要な装置は、電源を入れる前に、必ずアース接続をしてください。アース接続ができない場合は、担当営業員または担当保守員にご相談ください。万一漏電した場合に、火災・感電の原因となります。

警 告



取り外したカバー、キャップ、ネジなどは、小さなお子様が悪く飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



禁止



- 装置の開口部（通風孔など）をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
- 装置の上に重いものを置かないでください。また、衝撃を与えないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となります。
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。
- AC アダプタを使用する装置の場合は、マニュアルに記載されていない AC アダプタは使用しないでください。また、AC アダプタの改造・分解はしないでください。火災・けがの原因となります。
- サービスコンセントがある装置の場合は、マニュアルに記載されていない装置をサービスコンセントに接続しないでください。火災・けがの原因となります。
- フロッピーディスク・IC カードなどの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となります。
- 電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、火災・感電の原因となります。
- 携帯電話などを本体に近づけて使用しないでください。装置が正しく動かなくなります。

指示



- 転倒防止足のある装置は必ず使用してください。振動による転倒でけがをするおそれがあります。
- 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。火災・故障の原因となります。

プラグ



- 装置を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源ケーブルなどもはずしてください。作業は足元に十分注意して行ってください。電源ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となったり、装置が落ちたり倒れたりしてけがの原因となります。
- 長時間装置を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となります。

指示



- 健康のため、1時間ごとに10～15分の休憩をとり、目および手を休めてください。
- ディスプレイなど、重量のある装置を動かす場合は、必ず2人以上で行ってください。けがの原因となります。
- ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。耳を刺激するような大きな音量を長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与える原因となります。

■ オプションの取り扱いについて



感電



オプション装置の取り付けや取り外しを行う場合は、装置本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。

禁止



- 弊社推奨品以外の装置は接続しないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 本体に取り付けたモデムカードに、二股のモジュラプラグを接続している場合、空いている差し込み口に指などを入れないでください。感電の原因となります。

■ ラックの取り扱いについて



- ラックの開口部（通風孔など）をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
- ディスプレイ装置を交換する場合には、必ず担当保守員にご連絡ください。
ディスプレイが落下し、けがの原因となることがあります。
- マウステーブルを引き出す場合は、アームレストを確実にロックしてください。
ロックをしない状態で引き出すと、マウステーブルに傷がつく恐れがあります。
- マウステーブルに肘を掛けしないでください。
テーブルを破損する恐れがあります。
- キーボードテーブルを引き出した状態で、キーボードテーブルより下にある装置の操作を行う場合は、頭上のキーボードテーブルに十分注意をしてください。
キーボードテーブルにぶつかり、けがの原因となることがあります。
- 汎用テーブルに装置を搭載した場合には、必ず添付のベルトを使用して装置を汎用テーブルに固定してください。
- 転倒防止用スタビライザは必ず使用してください。振動による転倒でけがをするおそれがあります。
- ラック設置後にラックを移動する場合は、必ず担当保守員にご連絡ください。
不用意に移動すると、ラック／サーバ本体を損傷するおそれがあります。

■ 電池の取り扱いについて



使用している電池を取り外した場合は、小さなお子様が電池を誤って飲むことがないように、小さなお子様手の届かないところに置いてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

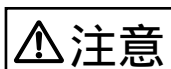


- マニュアルに記載されていない電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- 電池はショートしたり、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- 乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。



電池を取り付ける場合、極性のプラス（+）とマイナス（-）の向きに注意してください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。

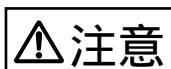
■ 温湿度について



- 本装置は、周囲温度が 10 ～ 35 ℃の環境を守ってご利用ください。
特に 24 時間運転をする場合には空調のスケジュールなどを十分考慮し（夜間や休日など）、条件をはずれた温度のもとで運用されることの無いようにしてください。
温度条件が守られないと、電子部品の誤動作や故障、寿命の短縮の原因となります。
- 一 特に夏場において 24 時間運用を行う場合、必要に応じて夜間・休日にも冷房を入れて、周囲温度が 35 ℃を超えないようにしてください。
- 一 冬場など寒中での暖房時は、一時間あたりの温度上昇が 15 ℃を超さないように室温調整を行い、結露を発生させないようにしてください。

		室内温度 (℃)							備考
		10	15	20	25	30	35	40	
相対湿度 (%)	20	- 7	- 5	- 3	1	5	9	13	[見方] 温度 25℃ で湿度 60% の場合、装置が 17℃ 以下のとき、結露します。
	40	- 3	2	7	11	16	20	24	
	60	3	8	13	17	22	26	31	
	80	7	12	17	22	26	31	-	
	90	9	13	19	24	29	34	-	

■ 腐食性ガスや塵埃について



- 腐食性ガスや塩風は、装置を腐食させ誤動作、破損および、装置寿命を著しく短くする原因となりますので、空気清浄装置を設置するなどの対策が必要となります。
- また、塵埃が多い場所についても、記憶媒体の破損、装置冷却の妨げなどにより、誤動作や装置寿命を著しく短くする原因となります。
- 腐食性ガスの発生源としては、化学工場地域、温泉／火山地帯などがあります。
 - 塩害地区の目安としては、海岸線から 500m 以内となります。

■ 本装置を廃棄するとき

本装置を廃棄する場合には、産業廃棄物として処理する必要があります。廃棄する場合には、必ず担当営業員または専門業者にご連絡ください。

サーバの保守サービスについて

■ サーバの保守サポート期間

保守サポート期間は、お客様のご購入後 6 年間です。

■ 定期交換部品

お客様の使用環境や使用時間により、サーバの一部の部品で保守サポート期間内に、交換が必要となる定期交換部品があります。

導入時より保守サービス契約を結ばれたお客様においては、交換費用（交換部品代及び、交換作業代）は、当該サービス契約料金に含まれており、優先的に交換いたします。

なお、保守サービス契約が未契約のお客様には、別途ご請求させていただきます。

● 定期交換部品の交換時期

定期交換部品の交換周期は、いずれも適切な使用環境下での運用を前提としています。

動作保証範囲は 10 ～ 35 °C ですが、交換時期は平均使用温度 25 °C での運用を想定しており、空調のある常温で使用してください。

● 定期交換部品

○ 電源ユニット

24 時間／日運転では約 3 年を経過すると交換時期となります。

10 時間以内／日運転では保守サポート期間内に交換時期となりません。

本サーバには 1 個あり、交換が必要です。

○ 冷却ファン

24 時間／日運転では約 3 年を経過すると交換時期となります。

10 時間以内／日運転では保守サポート期間内に交換時期となりません。

本サーバには 6 個あり、すべて交換が必要です。

○ 高性能無停電電源装置（Smart-UPS）のバッテリー

電源の投入／切断時間にかかわらず約 2 年を経過すると交換時期となります。

● 定期交換部品の交換時期の表示

RAS 支援サービスをインストールすることで、部品の交換を促すメッセージをサーバのパネルやコンソールに表示させることができます。メッセージは、数ヶ月以内に交換を促す、おおよその目安を示しており、メッセージが表示されましたら保守サービス窓口にご連絡ください。本サーバは出荷時に RAS 支援サービスがインストールされています。

RAS 支援サービスについては、「8.9 RAS 支援サービスについて」を参照してください。

PRIMERGY では、システムの安定稼働を目的に、保守サービス契約を結ばれることを推奨しております。

上記の定期交換部品のこともご勘案いただき、是非とも保守サービス契約を結ばれますようお願い申し上げます。

注意

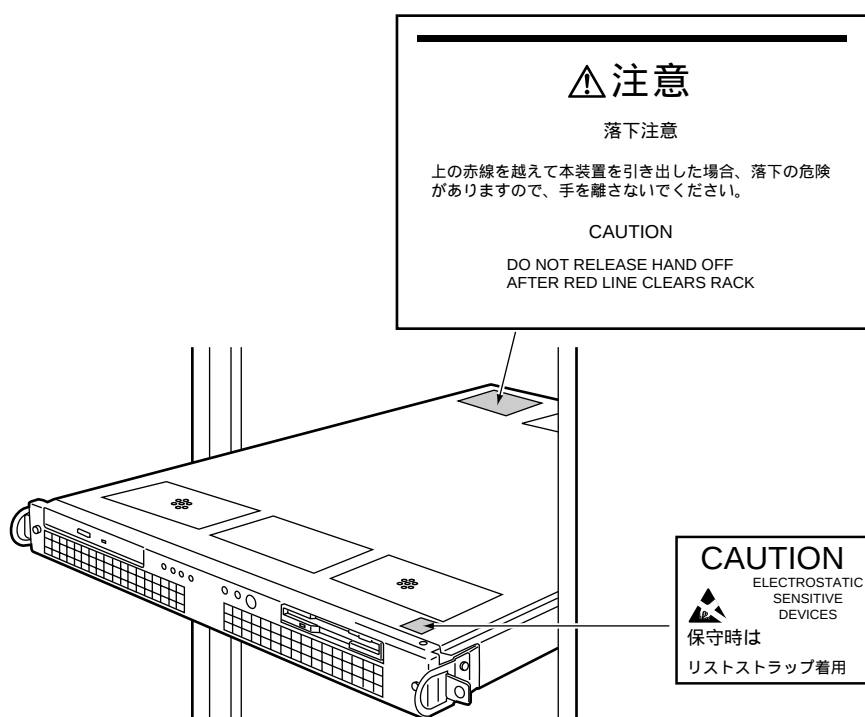
定期交換部品の交換周期は周囲温度で変動します。

定期交換部品の交換周期は、サーバ本体の使用温度を年間平均温度 25℃と想定してしております。したがって、年間平均温度が25℃を超えた環境で使用すると交換時期が早くなる場合があります。

一般的に温度が 10℃上がると (年間平均温度 35℃)、定期交換部品の交換周期は約半分に短縮されます。

警告ラベル

本製品には、下図のように警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルは、絶対にはがさないでください。



本書の表記について

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：[Ctrl] キー、[Enter] キー、[→] キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：[Ctrl] + [F3] キー、[Shift] + [↑] キーなど

■ コマンド入力

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
           ↑ ↑
```

↑の箇所のように文字間隔をあけて表記している部分は、[Space] キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を1回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

■ 本文中の表記

本文中では、以下の表記・記号を使用しています。

サーバ本体または本サーバ

PRIMERGY WebServer のことです。

Windows 2000 Server

Microsoft® Windows® 2000 Server の略です。



ポイント

ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。



ヘルプ

操作を間違えてしまったときの元の状態への戻し方や、困ったときの対処方法が書いてあります。



コラム

用語の意味や、豆知識が書いてあります。



本書内の参照ページを示します。

■ 画面例について

本書に記載されている画面は一例です。お使いのサーバに表示される画面やファイル名などが異なる場合があります。ご了承ください。

目 次

第 1 章 本サーバについて	1
1.1 特長	2
1.2 名称と働き	3
1.2.1 サーバ本体前面	3
1.2.2 サーバ本体背面	4
1.2.3 サーバ本体内部	5
1.2.4 セキュリティ	6
1.2.5 キーボード／マウス	7
1.3 設置から運用まで	9
第 2 章 設置と接続	11
2.1 梱包物の確認	12
2.2 設置	13
2.2.1 設置場所に関する注意	13
2.2.2 設置環境および設置条件	16
2.2.3 サーバ本体のラックへの搭載手順	19
2.3 接続方法	21
2.3.1 接続全体図	21
2.3.2 ディスプレイの接続	22
2.3.3 キーボード・マウスの接続	23
2.3.4 LAN ケーブルの接続	24
2.3.5 プリンタの接続	25
2.3.6 電源ケーブルの接続	26
2.3.7 外付け SCSI 装置の接続	28
第 3 章 基本的な操作	29
3.1 ラックドアを開ける	30
3.2 電源を入れる	32
3.3 電源を切る	33
3.4 フロッピィディスクのセット／取り出し	35
3.4.1 取扱い上の注意	35
3.4.2 フロッピィディスクのセットと取り出し	37

3.5 CD-ROM のセット／取り出し	38
3.5.1 取扱い上の注意	38
3.5.2 CD-ROM のセットと取り出し	40
第 4 章 セットアップ	43
4.1 セットアップの概要	44
4.2 ハードウェアの設定	45
4.3 BIOS セットアップユーティリティを使う	47
4.3.1 BIOS セットアップユーティリティを使うとき	47
4.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了	48
4.3.3 BIOS セットアップユーティリティでのキー操作	50
4.3.4 メニューと項目一覧	51
4.3.5 Main メニュー	54
4.3.6 System Information メニュー	55
4.3.7 Product Information メニュー	57
4.3.8 Disk Drives メニュー	59
4.3.9 Onboard Peripherals メニュー	63
4.3.10 Power Management メニュー	68
4.3.11 Boot Options メニュー	71
4.3.12 Date and Time メニュー	75
4.3.13 System Security メニュー	76
4.3.14 System Event Log メニュー	80
4.3.15 Console Redirection メニュー	85
4.3.16 Advanced Options メニュー	87
4.3.17 Load Default Settings メニュー	94
4.3.18 Abort Settings Change メニュー	95
4.4 SCSI Select ユーティリティを使う	96
4.4.1 SCSI Select ユーティリティの起動と終了	96
4.4.2 メニューと項目一覧	101
4.4.3 Main メニュー	103
4.4.4 Configure/View Host Adapter Setting メニューの詳細	104
4.4.5 SCSI Disk Utilities メニューの詳細	111
4.5 BIOS 設定情報の退避／復元	112
第 5 章 内蔵オプションの取り付け	121
5.1 内蔵オプションの種類	122
5.2 各カバーの取り外し	124
5.2.1 フロントカバーの取り外し	124
5.2.2 トップカバーの取り外し	125
5.3 CPU の取り付け	126
5.4 拡張 RAM モジュールの取り付け／取り外し	129
5.5 内蔵 CD-ROM ドライブユニットの取り付け	131
5.6 内蔵ハードディスクユニットの取り付け	132

5.7 拡張カードの取り付け	135
5.7.1 拡張カードの種類	135
5.7.2 拡張カード共通の留意事項	136
5.7.3 取り付けの手順と注意	137
5.7.4 オンボード SCSI カードの留意事項	139
5.7.5 LAN カード／オンボード LAN の留意事項	140
第 6 章 運用のための事前準備	143
6.1 セットアップの概要	144
6.2 DesignMagic for WebServer	145
6.2.1 DesignMagic for WebServer でのセットアップ手順	148
6.2.2 DesignMagic for WebServer でのサーバ設計の流れ	149
6.2.3 サーバ情報を設定する	150
6.3 運用のためのセットアップ	157
6.3.1 WebUI でのサーバ運用に必要なセットアップ手順	158
6.3.2 ネットワーク環境を設定する	159
第 7 章 Web UI	161
7.1 Web UI とは	162
7.2 接続方法	162
7.3 画面構成	164
7.3.1 ステータス領域	164
7.3.2 コンテンツ領域	165
7.3.3 Web UI 内を移動する	167
7.4 運用時のサーバ状態について	168
7.5 Web UI で提供する機能	170
7.5.1 開始メニュー	170
7.5.2 状態メニュー	177
7.5.3 サイトメニュー	178
7.5.4 環境設定メニュー	197
7.5.5 ネットワークメニュー	198
7.5.6 メンテナンスメニュー	207
第 8 章 運用と管理	235
8.1 本サーバの位置付け	236
8.1.1 サーバの位置付け	236
8.1.2 本サーバで実施済のセキュリティ対策	236
8.2 公開サイトを構築するには	239
8.2.1 サイトの作成	239
8.2.2 コンテンツのアップロード	239
8.2.3 トップページの設定	245

8.3 暗号化された通信を行うには	246
8.4 負荷分散機能	247
8.4.1 負荷分散の設定方法	247
8.4.2 負荷分散設定を解除するには	249
8.5 ソフトウェアの更新	250
8.6 バックアップ／リストア	251
8.7 サーバ監視	252
8.7.1 通知電子メール	252
8.7.2 ServerVisor	252
8.7.3 ServerVisor での異常発生のお知らせ	252
8.7.4 Server Visor でのハードウェアの監視	253
8.7.5 Server Visor での異常通知設定	253
8.8 RAS 支援サービスについて	255
8.8.1 メニューと項目一覧	257
8.8.2 部品寿命情報 参照・設定メニュー	257
8.8.3 起動監視機能設定メニュー	259
8.8.4 電源切断モード設定メニュー	262
8.8.5 メモリエラー情報クリアメニュー	263
8.8.6 障害の通知方法設定メニュー	264
8.8.7 RAS 支援サービスで表示されるメッセージ	264
第 9 章 保守機能について	269
9.1 メモリダンプ	270
9.1.1 ダンプの種類と情報範囲	271
9.1.2 ダンプの採取設定	272
9.2 クラッシュが起きてしまったら	273
9.2.1 状態を確認する	273
9.2.2 ダンプファイルを取得する	273
9.3 障害のお知らせ	273
9.4 リカバリ CD によるリカバリ	274
9.4.1 リカバリ作業の流れ	274
9.4.2 BIOS 設定の初期設定	274
9.4.3 リカバリの実施	275
9.4.4 リカバリ後のシステム復旧	275
第 10 章 日常のお手入れ	277
10.1 お手入れ	278
10.1.1 サーバ本体のお手入れ	278
10.1.2 キーボードのお手入れ	278
10.1.3 マウスのお手入れ	279
10.1.4 フロッピーディスクドライブのクリーニング	280
10.2 バックアップ	283

10.2.1 バックアップの必要性	283
10.2.2 バックアップ方法	283
第 11 章 故障かな？と思ったときには	285
11.1 トラブルシューティング	286
11.2 エラーメッセージ	289
11.3 イベントログ	293
11.3.1 イベントログを採取するための設定	293
11.3.2 イベントログの参照	293
11.3.3 イベントログ採取プログラム (Event Log Viewer) の使用方法	295
11.4 保守員に連絡するときは	300
A.1 仕様	302
A.1.1 本体仕様	302
A.1.2 内蔵ハードディスクユニットの仕様	304
A.2 24 時間運用上の留意点	305
A.3 CPU 増設時の OS の変更手順	306
A.4 メモリダンプの取得	310
A.4.1 メモリダンプを取得するための設定方法	310
A.4.2 メモリダンプが取得できないとき	314
A.5 RS-232C 経由でのリセット機能について	315
A.5.1 本サーバと PC の接続	315
A.5.2 Remote Control Setup ユーティリティの操作	316
A.5.3 Remote Control Setup ユーティリティの項目一覧	319
A.5.4 Remote Control Setup ユーティリティのエラーメッセージ	322
B.1 コンフィグレーションシート	324
B.1.1 ハードウェア構成	324
B.1.2 BIOS セットアップ項目	326
B.1.3 SCSI Select ユーティリティ	333
B.1.4 RAS 支援サービス設定項目	338
B.1.5 システム資源管理表	339
B.2 障害連絡シート	341

第 1 章 本サーバについて

この章は、本サーバの特長、代表的な周辺装置、装置の各部の名称と働きなど、基本的な知識を解説しています。

CONTENTS

1.1 特長	2
1.2 名称と働き	3
1.3 設置から運用まで	9

1.1 特長

本サーバには、以下のような特長があります。

■ 高速な処理

本サーバでは、データを高速に処理できる Pentium® III プロセッサを 1 個搭載しており、最大 2 個まで搭載できます。システムは 64 ビット幅のメモリバスをもっていますので、64 ビット幅の外部データバスをもつ Pentium® III プロセッサの性能を最大限に引き出すことができます。

本サーバには最大データ転送速度 533MB / 秒を誇る PCI バスを搭載しています。また、オンボード SCSI は Ultra Wide SCSI をサポートしています。これによりネットワークサーバとしてのパフォーマンスを飛躍的に向上させることができます。

■ コンパクトデザイン・拡張性

- 本サーバは、ラック搭載専用薄型サーバ (1U) です。
本サーバは、19 インチ (40U) または 19 インチ (24U) のラックを採用し、本体装置、ディスプレイ、キーボード、外付 SCSI 装置などを効率的に収納し、設置場所にスペースをとりません。
- メモリは、最大 4GB まで拡張できます。
- 最大 3 個のハードディスクユニットを搭載できます。
- PCI スロットを 1 つ用意しています。
- 本サーバは、LAN ポートを 2 つ標準搭載しています。

■ 高信頼性の実現

- Wakeup On LAN 機能により、クライアントから LAN 経由でサーバ本体の電源を投入／切断できます。
- RAS (Reliability, Availability & Serviceability) 機能により、定期交換部品の交換時期を管理できます。

■ 簡単なセットアップ

本サーバは、アプライアンス導入支援プログラムである「DesignMagic for WebServer」を添付しており、お客様の環境における最小の設定で、運用開始までの TCO (Total Cost of Ownership) 削減を最大限支援します。

また、本サーバはあらかじめセットアップに必要なパラメータをブレインストールにて設定しております。

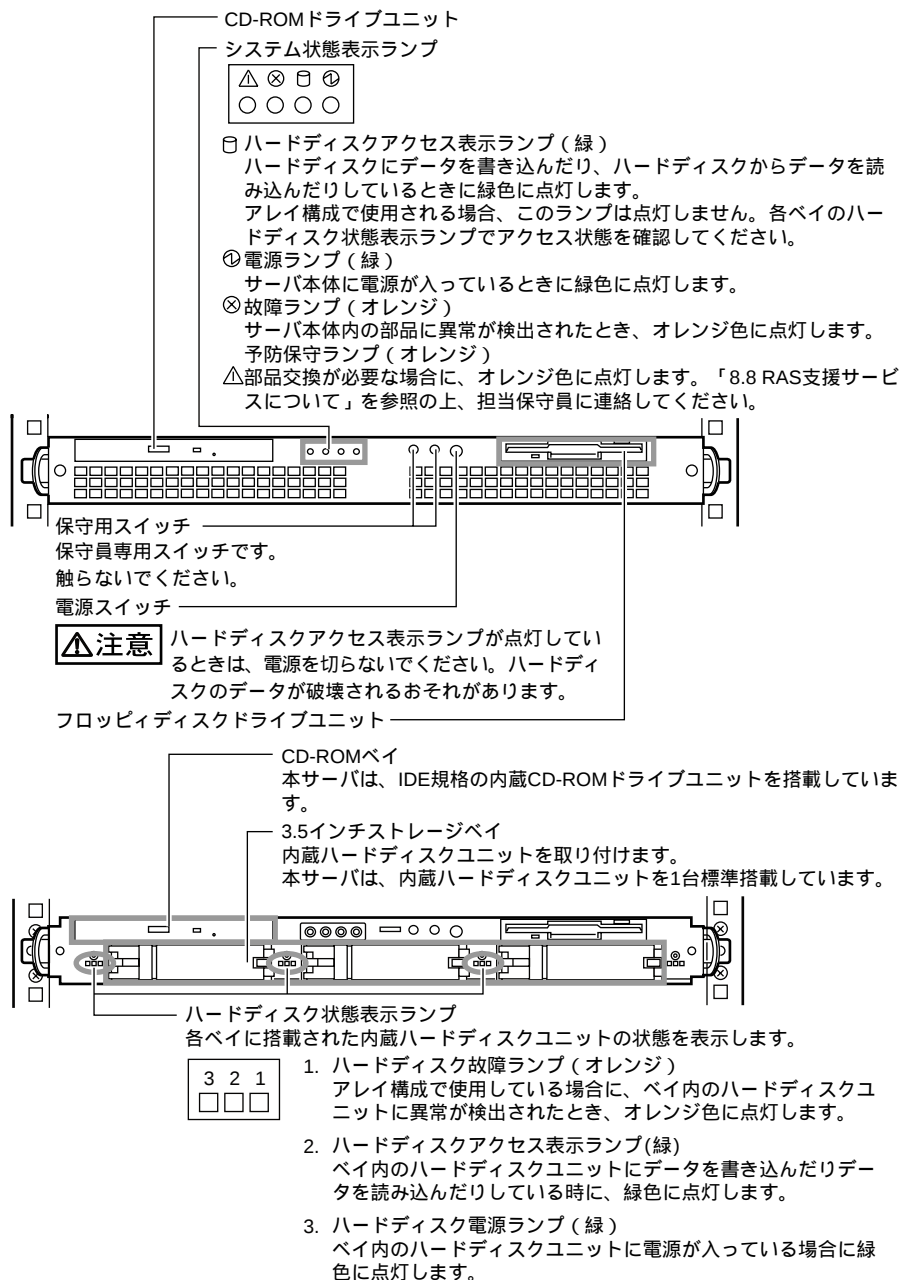
これにより上記ツールを使わなくても運用を開始できます。

「DesignMagic for WebServer」の設定とブレインストール設定の詳細な違いに関しては、「第 6 章 運用のための事前準備」をご覧ください。

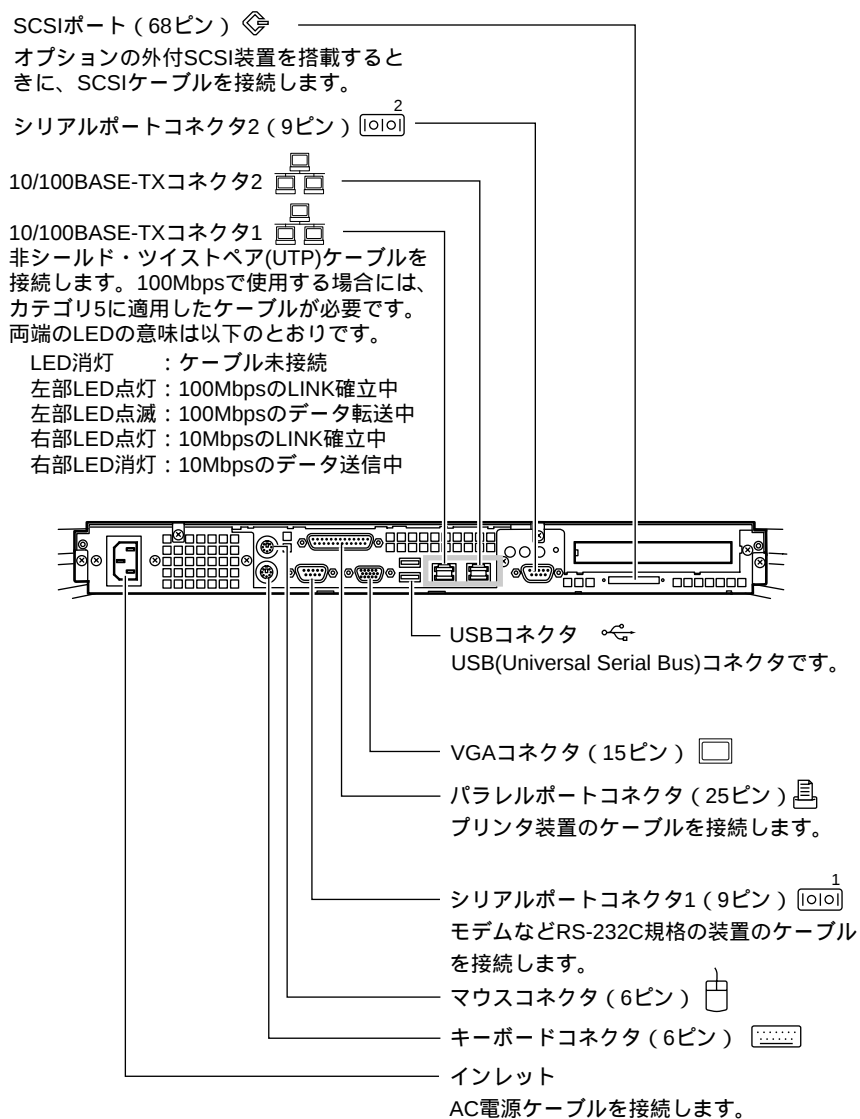
1.2 名称と働き

ここでは、サーバ本体、キーボード、マウスの各部の名称と働きを解説します。

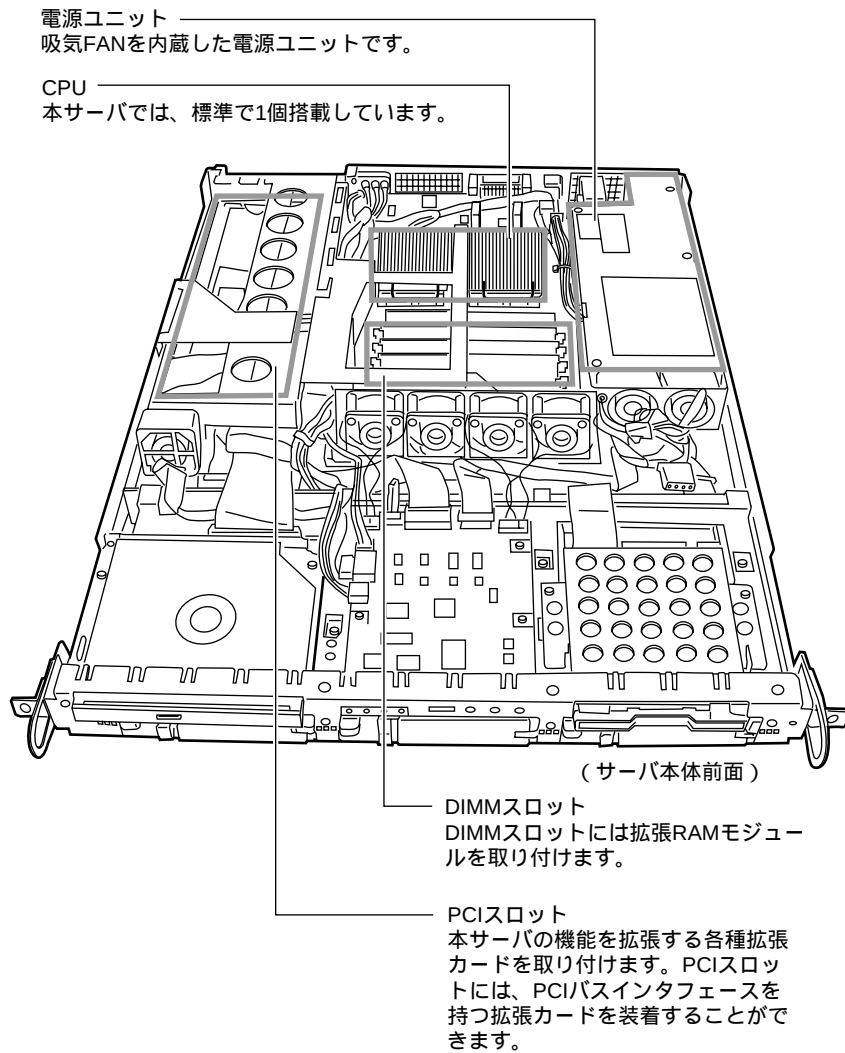
1.2.1 サーバ本体前面



1.2.2 サーバ本体背面

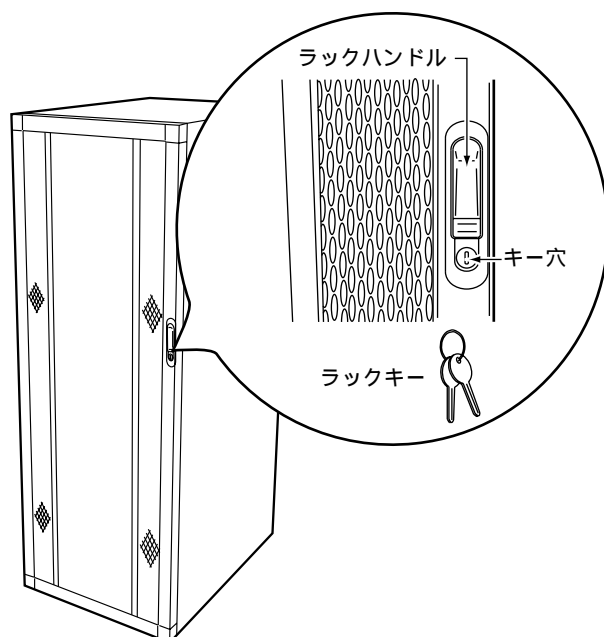


1.2.3 サーバ本体内部



1.2.4 セキュリティ

本サーバでは、本体内のハードウェアおよびソフトウェア資産を盗難などから守るため、以下のように機械的なセキュリティ設備を用意しています。同時に、BIOS セットアップユーティリティなどによるセキュリティ機能も準備しており、より信頼度の高いデータセキュリティを実現します。（BIOS セットアップユーティリティなどのセキュリティモード設定については、「4.3.13 System Security メニュー」をご覧ください。）



ラックドアを施錠すると、ラック内部のハードウェアの盗難を防ぐことができます。

ラックドアを開ける場合は、ラックキーを回してラックハンドルの下部を押し、右側に回して手前に引きます。



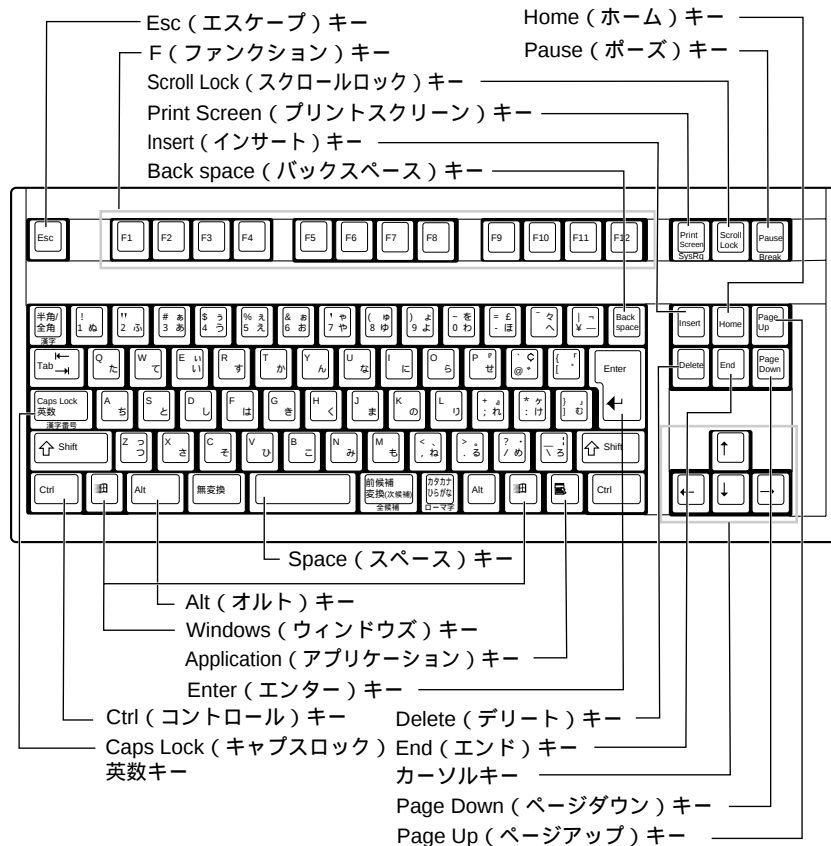
ポイント

ラックキーは紛失しないように注意してください。紛失した場合は担当営業に連絡してください。

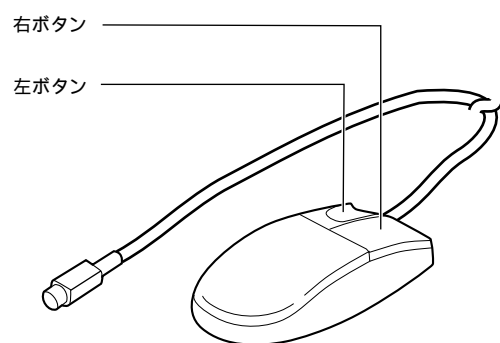
1.2.5 キーボード／マウス

本サーバのオプションとして、次のキーボードとマウスを用意しています。

■ キーボード



■ マウス



1.3 設置から運用まで

本サーバの設置から運用までの流れを示します。
以降の流れ図に従って、設置から運用までの作業を行ってください。

- 1 梱包物 / 添付品を確認する
…▶ 「第2章 設置と接続」の「2.1 梱包物の確認」
- 2 設置場所を確認し設置する
…▶ 「安全上のご注意」、「第2章 設置と接続」
- 3 準備する
事前に以下のものを用意してください。
 - ・添付のリカバリCD
- 4 周辺機器を取り付ける
…▶ 「第2章 設置と接続」の「2.3 接続方法」
- 5 各機器の取り付けを確認する
- 6 任意のクライアントマシンで「DesignMagic for WebServer」を起動する
DesignMagic for WebServer は、以下のアプライアンス情報を簡単に行うことができる導入支援プログラムです。
 - ・サーバ識別情報
 - ・管理者情報
 - ・ネットワーク設定

DesignMagic for WebServerを使用する場合

- 1 DesignMagic for WebServerを起動します。
- 2 サーバ設定情報フロップィを作成します。
- 3 サーバ設定情報フロップィを本サーバに挿入し、電源を投入します。
- 4 セットアップが開始され、セットアップ終了後再起動されます。
- 5 本サーバにDesignMagic for WebServerで設定した管理者ユーザアカウントでログオンします。
- 6 ログオン処理完了後、サーバ設定情報フロップィを本サーバから抜きます。

必須

…▶ 「第6章 運用のための事前準備」

DesignMagic for WebServerを使用しない場合

- 1 そのまま電源を投入します。
- 2 セットアップが開始され、セットアップ終了後再起動されます。
- 3 アプライアンス情報を変更する場合は、電源投入後Web UIを使用します。

必須

…▶ 「第7章 Web UI」

7

電源の投入

DesignMagic for WebServerを使用した場合と、使用しない場合では手順が異なります。詳細は手順6をご覧ください。

注意

電源投入後、約10分ほど待ち、パイロットランプが緑色になったことを確認します。

8

システム設定情報を退避する

「BIOS Environment Support Tools」を用いて、システムの設定情報を退避するとともに、コンフィグレーションシートに装置の運用状態を記入するようにしてください。システムに異常が発生したときやオプションの増設時に参考になります。

…▶ 「4.5 BIOS設定の退避/復元」

…▶ 「付録B.1 コンフィグレーションシート」

9

運用開始

第 2 章 設置と接続

この章は、本サーバの設置場所および本サーバと周辺装置との接続方法を解説しています。

CONTENTS

2.1 梱包物の確認	12
2.2 設置	13
2.3 接続方法	21

2.1 梱包物の確認

箱の中に次の品物がそろっているか確認してください。万一、欠品などがございましたら、担当営業員までお申しつけください。

また、梱包物 / 添付品は、大切に保管してください。

タイプ	名称	備考
共通	☐ 本体装置	
	☐ 電源ケーブル（本体装置用）	1 本
	☐ リカバリ CD	CD-ROM 1 枚
	☐ 取扱説明書	本書
	☐ セットアップガイド	1 部
	☐ ハードウェア構成ツール起動用 ディスク	フロッピーディスク 1 枚
	☐ BIOS Environment Support Tools	フロッピーディスク 1 枚
	☐ ラックレール	左右 1 組
	☐ リストストラップ	1 個
	☐ ラベル	5 枚一組 × 2
	☐ 保証書	1 部

2.2 設置

ここでは、本サーバを設置する場合の注意事項および設置条件などについて説明します。

なお、ラックの設置に関する注意については、ラックに添付されている取扱説明書も併せて参照してください。

2.2.1 設置場所に関する注意

本サーバを設置するときは、以下の場所は避けてください。



指示



- 本ラックシステムは、0.2G（震度 5 程度：強震相当）以下の振動では問題なく動作するように設計されています。地震発生時の転倒防止のために、本ラックシステムの設計の際には必ず装置／ラックの固定などの耐震対策を行う必要がありますので、担当営業員にご相談ください。

禁止

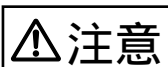


- 床の強度が弱い場所に設置しないでください。
最大搭載時の最大重量は、790kg になるため強度が弱い床では床が抜けるおそれがあります。
- 湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に設置しないでください。
故障・火災・感電の原因となります。

水気



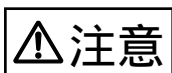
- 本体に水をかけないでください。
故障・火災・感電の原因となります。
- 風呂場、シャワー室などの水場で使用しないでください。
故障・火災・感電の原因となります。



禁止



- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所には設置しないでください。また、10℃未満の低温になる場所には、設置しないでください。故障の原因となります。
- 塩害地域では使用しないでください。故障の原因となります。
- ラックの開口部（通風孔など）をふさがしないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
- 電源ケーブルおよび各種ケーブル類に足が引っかかる場所には設置しないでください。故障の原因となります。
- テレビやスピーカの近くなど、強い磁界が発生する場所には設置しないでください。故障の原因となります。
- 空気の吸排気口である装置前面部、背面部および左右側面部をふさがしないでください。
これらをふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
- 本体装置は、水平で安定した場所、および大きな振動の発生しない場所に設置してください。
振動の激しい場所や傾いた場所などの不安定な場所は、落ちたり倒れたりしてけがの原因になりますので、設置しないでください。
また、通路の近くには、危険防止のため設置しないでください。通路の近くに設置すると、人の歩行などで発生する振動によって本体が故障したり誤動作する場合があります。
- 本サーバの上に重いものを置かないでください。また、本サーバの上に物を落としたり、衝撃を与えないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となります。また、本サーバが故障したり誤動作する場合があります。
- 本サーバを移動する場合は、必ず電源を切断し、ケーブル類／マウス／キーボード／AC ケーブルをはずしてください。オプションの搭載によって、最大 790Kg の重量となりますので充分注意して運搬してください。
- ラックのフロントドア、リアドアは取り外さないでください。ドアは重量があるため、倒れたり、落下したりしてけがの原因となることがあります。取り外す必要が生じた場合には、担当保守員にご連絡ください。



指 示



- 転倒防止用スタビライザは必ず使用してください。振動による転倒でけがをするおそれがあります。
- ラック設置後にラックを移動する場合は、必ず担当保守員にご連絡ください。
不用意に移動すると、ラック／サーバ本体を損傷するおそれがあります。

2.2.2 設置環境および設置条件

本サーバはラックに搭載して設置します。
ここでは、設置環境および設置条件について説明します。



- 本装置は、周囲温度が 10 ～ 35 °C の環境を守ってご利用ください。
特に 24 時間運転をする場合には空調のスケジュールなどを十分考慮し (夜間や休日など)、周囲温度をはずれた温度のもとで運用されることの無いようにしてください。
温度条件が守られないと、電子部品の誤動作や故障、寿命の短縮の原因となります。
 - ー 特に夏場において 24 時間運用を行う場合、必要に応じて夜間・休日にも冷房を入れて、周囲温度が 35 °C を超えないようにしてください。
 - ー 冬場など寒中での暖房時は、一時間あたりの温度上昇が 15 °C を超さないように室温調整を行い、結露を発生させないようにしてください。

■ 設置環境

本サーバは、以下の環境条件を守ったうえで運用してください。環境条件をはずれた設置環境での運用は、本サーバの故障や寿命を著しく短縮する原因となります。

温度 (10 ～ 35 °C)

直射日光の当たる場所、温度条件の厳しい場所を避けて設置してください。また、急激な温度変動は装置を構成する部品に悪影響を与え、故障の原因となるため、温度勾配は 10 °C / 時間以内が理想です。また、15 °C / 時間を超えるような環境は避けてください。

湿度 (20 ～ 80%)

高湿度環境に設置すると、腐食性有害物質および塵埃との相乗作用による故障の原因となります。また、磁気媒体・帳票類へも悪影響を及ぼしますので、空調機などにより調整してください。

塵埃 (オフィス環境 : 0.15mg / m³ 以下)

塵埃 (ほこり、ちりなど) は磁気媒体やヘッドを傷つけたり、接触不良を起こす原因となります。また、腐食性有害物質および湿気との相乗作用により装置に悪影響を与えるため、空調機を装備したエアフィルタで塵埃を除去するなどの対策が必要です。特に、フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブユニット、などの磁気テープ装置を使用する場合、ヘッドや媒体に付着した塵埃がリードエラーやライトエラーの原因となるため、定期的なクリーニングを行ってください。クリーニングの詳細は、「第 10 章 日常のお手入れ」を参照してください。

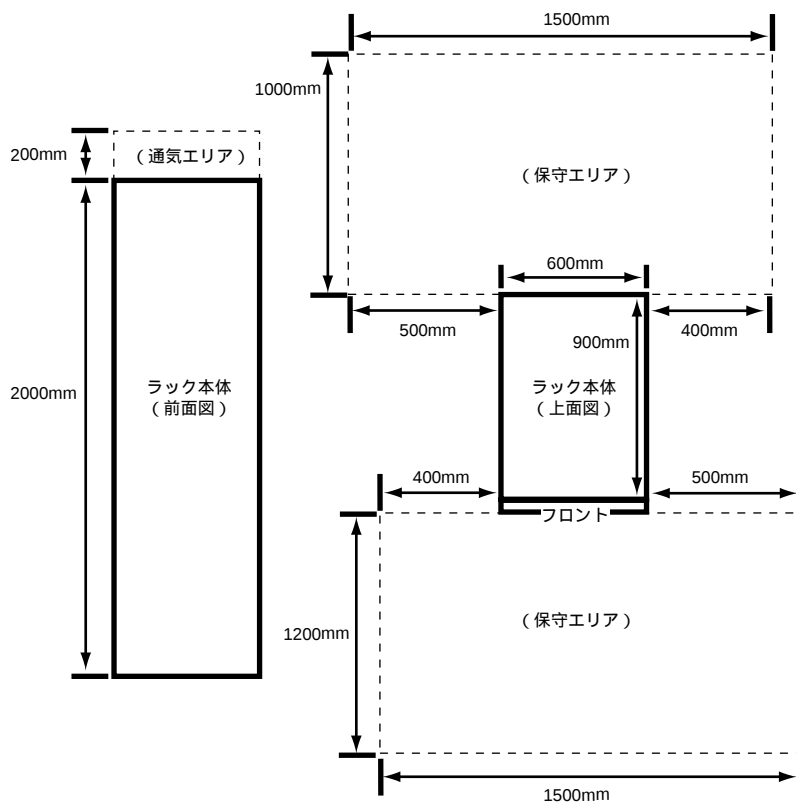
■ サーバ本体環境条件

項目		設置条件
温度	動作時	10 ～ 35 °C
	休止時	- 5 ～ 55 °C
湿度	動作時	20 ～ 80%RH（結露しないこと）
	休止時	
温度勾配	動作時	15 °C /hr 以下（結露しないこと）
	休止時	
AC 入力条件	電圧	AC100 ～ 120V
	周波数	50/60Hz
浮遊塵埃		0.15mg/m ³ 以下

■ 設置スペース

本サーバをラックに搭載して設置するときは、以下のスペースを確保してください。

なお、40U ラックを元に説明しています。その他のラックの設置スペースについては、ラックに添付の取扱説明書を参照してください。

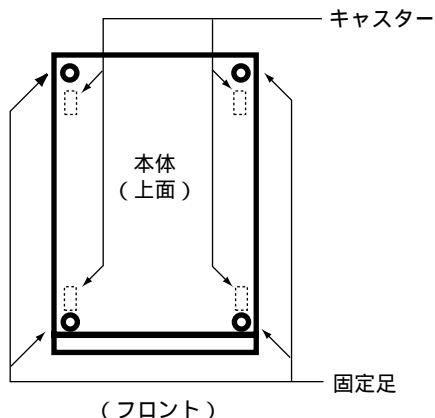


■ 本サーバの固定について

本サーバをラックに搭載して設置したあと、ラックの底面にある固定足で本サーバを固定してください。

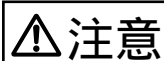
キャスターだけで長時間固定すると、キャスターが破損・変形します。

固定足を使用し、キャスターを床面から 2mm 以上あげて固定します。



■ 転倒防止用スタビライザの取り付け

本サーバをラックに搭載してラックを固定したあと、ラックに転倒防止用スタビライザを取り付けてください。



転倒防止用のスタビライザは、設置時に必ず取り付けてください。

取り付けない状態でラック内部のサーバ本体を引き出すと、ラックが転倒するおそれがあります。

以下に、転倒防止用スタビライザの取り付け手順を示します。

- 1 ラックを設置し、ラック底面にある固定足でラックを固定します。
(上記「■ 本サーバの固定について」参照)

- 2 ラックの前後左右面に、スタビライザを取り付けます。

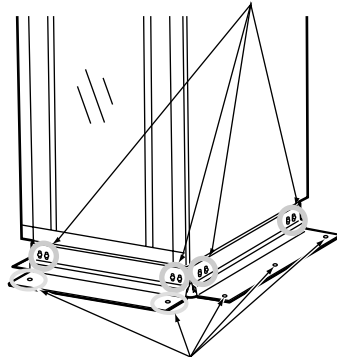
ラックの前後左右の面に、スタビライザを取り付けます。

スタビライザを 4 本のネジでラックに取り付けます。

次に、スタビライザを床面に固定します。前面と背面のスタビライザは、2 本のボルトで床面に固定します。側面のスタビライザは、3 本のボルトで床面に固定します。

なお、床面に固定するボルトは、別途必ず購入する必要があります。

各面4本のネジで固定(左側面 / 背面も同様)

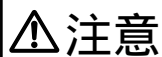


前面および背面は各2本、両側面は各3本のボルトで固定

2.2.3 サーバ本体のラックへの搭載手順

本サーバは、ラックに搭載して運用します。

ここでは、サーバ本体をラックに搭載する手順について説明します。



サーバ本体をラックに搭載したりラックから取り外す場合は、担当保守員に連絡してください。

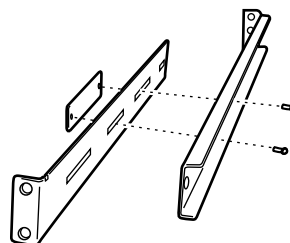


取り付けや取り外しをするときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。

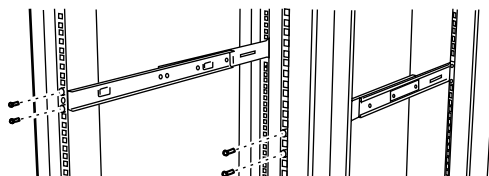
感電したり機器が故障するおそれがあります。

■ 搭載手順

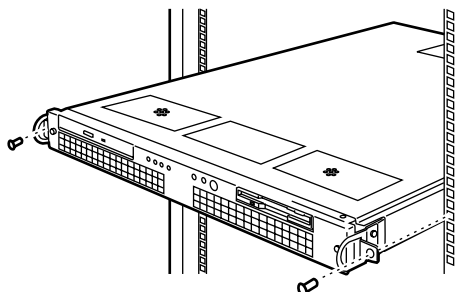
- 1 ラックのフロントドアとリアドアを開けます。
(「3.1 ラックドアを開ける」参照)
- 2 サーバ本体取り付け用レールを、仮組み立てします。
レールは3つの部品から構成されており、ラックの長さにあわせて組み立てます。各レールのネジ2本は、軽くしめます（ここで強くしめると、手順3でレールを正しく固定できなくなります）。



- 3 仮組み立てしたレールを、ラックに取り付けます。
ラックに取り付け、各レールに前面から2本、後面から2本のネジで固定します。



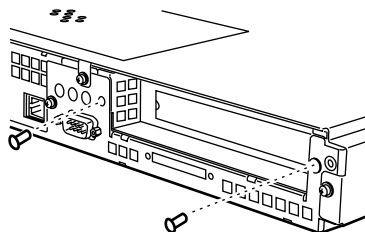
- 4 手順2で軽くしめたネジをしめ、レールを固定します。
- 5 サーバ本体をラックに取り付けます。
サーバ本体とラックを、2本のネジで固定します。



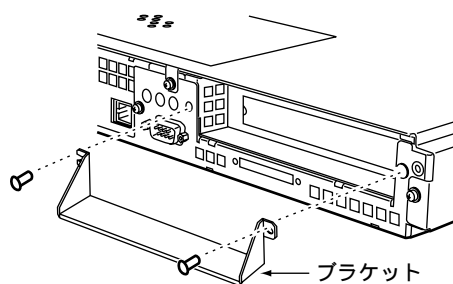
■ ブラケットの取り付け手順

サーバ本体をラックに搭載したあと、以下の手順に従いブラケットを取り付けてください。

- 1 サーバ本体をラックに搭載します。
(「■ 搭載手順」(→ 19 ページ) 参照)
- 2 サーバ本体背面の2箇所のネジを取り外します。



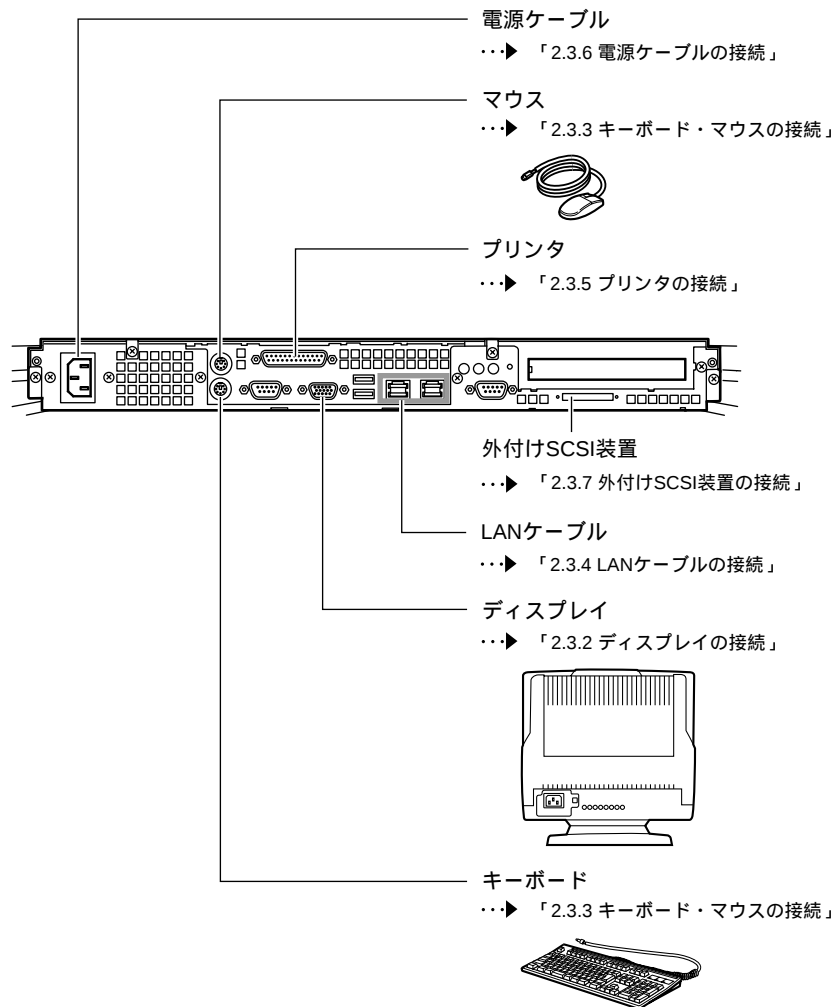
- 3 サーバ本体に添付のブラケットを取り付けます。
ブラケットを、サーバ本体に添付の2本のネジで取り付けます。
この時、手順2で取り外したネジは、使用しないでください。



2.3 接続方法

2.3.1 接続全体図

以下は、背面から見た接続全体図です。各周辺装置の接続方法は、各項をご覧ください。



2.3.2 ディスプレイの接続



感 電

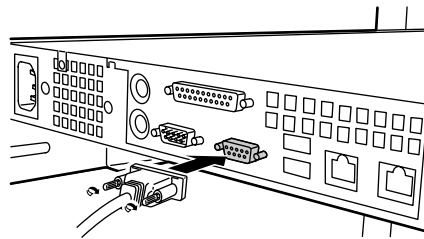


- 接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。感電の原因となります。
- 電源プラグをコンセントに接続する前に、必ずアースを接続してください。また、アース接続を外すときには、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。感電の原因となります。

ディスプレイの接続方法は、以下のとおりです。

1 ディスプレイケーブルをサーバ本体に接続します。

ディスプレイケーブルのコネクタを、サーバ本体の VGA コネクタに接続し、ディスプレイケーブルのコネクタのネジをしめます。



2 ディスプレイケーブルをディスプレイに接続します。

ディスプレイへの接続は、ディスプレイに添付の取扱説明書を参照してください。

2.3.3 キーボード・マウスの接続



感電

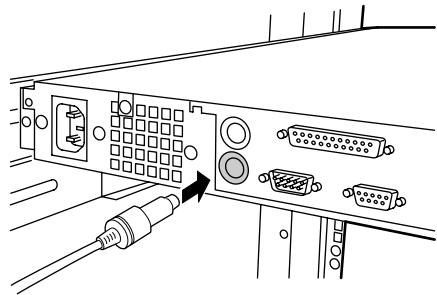


- 接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。感電の原因となります。

■ キーボードの接続

- 1 キーボードケーブルのコネクタを、サーバ本体背面のキーボードコネクタ () に接続します。

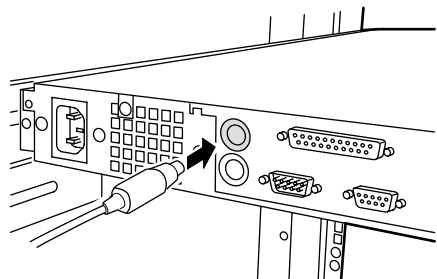
このとき、コネクタに刻印されている矢印が左側に向くようにします。



■ マウスの接続

- 1 マウスケーブルのコネクタを、サーバ本体背面のマウスコネクタ () に接続します。

このとき、コネクタに刻印されている矢印が左側に向くようにします。

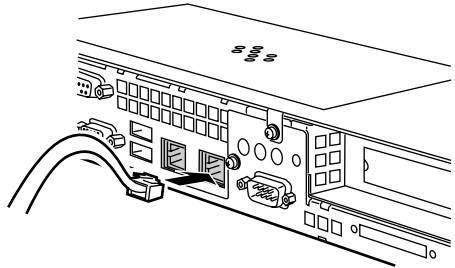


2.3.4 LAN ケーブルの接続

本サーバの LAN ケーブルを接続します。

1 LAN ケーブルをサーバ本体に接続します。

LAN ケーブルのコネクタを、サーバ本体背面の 10/100BASE-TX コネクタに接続します。



2 LAN ケーブルをハブやルータなどに接続します。

もう片方のコネクタを、ハブやルータなどに接続します。

2.3.5 プリンタの接続



- 本サーバは Microsoft 社との契約上プリンタサーバとしてご使用いただくことはできません。

2.3.6 電源ケーブルの接続

周辺装置の接続を終えたら、本サーバの電源ケーブルを接続します。



- 濡れた手でプラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。
- 電源ケーブルや電源プラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

指示



- 電源プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。
そのまま使用すると、火災の原因となります。
- 電源ケーブルは、家庭用電源（AC100V）に接続してください。また、タコ足配線をしないでください。
故障・火災の原因となります。

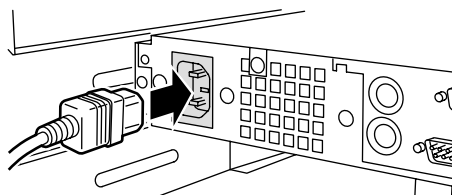
感電



電源プラグをコンセントに接続する前に、必ずアースを接続してください。また、アース接続を外すときには、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。
感電の原因となります。

1 電源ケーブルをサーバ本体に接続します。

電源ケーブルのプラグを、本サーバのインレットに接続します。



2 電源ケーブルをコンセントに接続します。

もう片方のプラグを、コンセントに接続します。

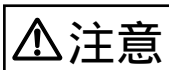
コンセントが2ピンの場合は、2ピン-3ピン変換用アダプタプラグを取り付け、アダプタプラグについているアース線をコンセントのFGネジに接続します。その後、コンセントに接続します。



警告



- 近くで雷が発生したときは、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては装置が破壊され、火災の原因となります。



注意



- プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ずプラグを持って抜いてください。
電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、火災、感電の原因となります。
- プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
火災・故障の原因となります。
- 長時間使用しないときは、安全のため必ずプラグをコンセントから抜いてください。火災・故障の原因となります。

2.3.7 外付け SCSI 装置の接続

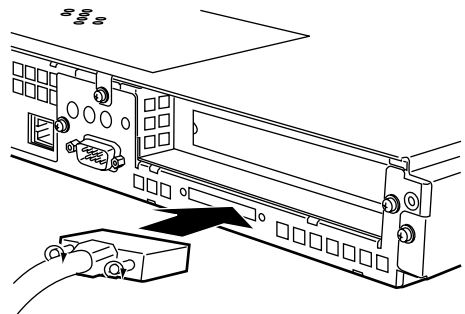
ここでは、バックアップキャビネットの接続について説明します。
その他の外付け SCSI 装置の接続については、それぞれの外付け SCSI 装置に添付の取扱説明書を参照してください。



接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。
感電の原因となります。

■ バックアップキャビネットの接続方法

- 1 サーバ本体の電源を切断し、バックアップキャビネットをラックに搭載します。
搭載方法は、バックアップキャビネットの取扱説明書を参照してください。
- 2 バックアップキャビネットとサーバ本体を、SCSI ケーブルで接続します。
SCSI ケーブルのコネクタを、サーバ本体背面の SCSI ポートに接続します。



- 3 バックアップキャビネットの電源連動モードを「RCI モード」から「SCSI TERM モード」に変更します。
詳細は、バックアップキャビネットの取扱説明書を参照してください。
- 4 サーバ本体の電源を投入します。
サーバ本体とバックアップキャビネットに電源が投入されます。

第 3 章 基本的な操作

この章は、電源の入れ方や切り方、フロッピーディスクのセット方法や取り出し方法など、本サーバを使用する上での基本的な操作を解説しています。

CONTENTS

3.1 ラックドアを開ける	30
3.2 電源を入れる	32
3.3 電源を切る	33
3.4 フロッピーディスクのセット／取り出し	35
3.5 CD-ROM のセット／取り出し.....	38

3.1 ラックドアを開ける

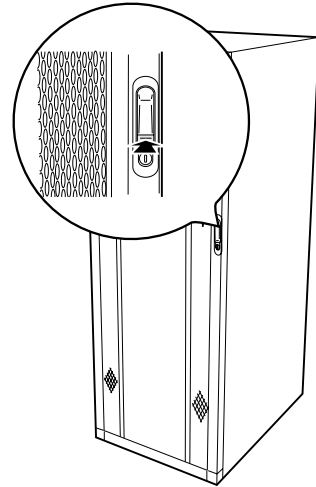
本サーバはラックに搭載されています。ラックには、フロントドアとリアドアがあります。

ここでは、フロントドアおよびリアドアを開ける方法について説明します。

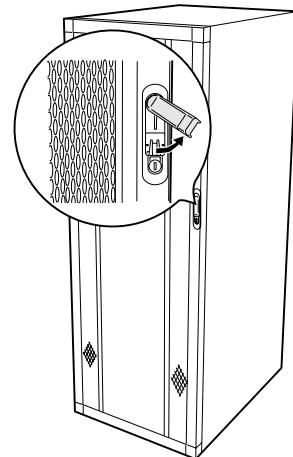
なお、40U のラックを元に説明しています。

■ フロントドアの開け方

- 1 ラックキーを左側に回し、ラックハンドルの下部（図中の矢印部）を押します。
ラックハンドルが前に上がります。

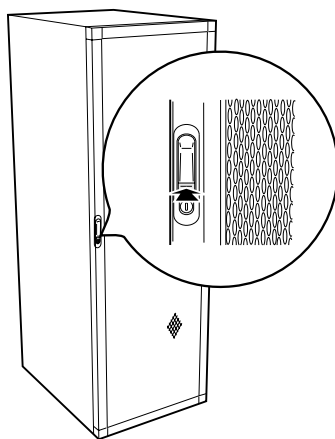


- 2 ラックハンドルを右側に回して、手前に引きます。

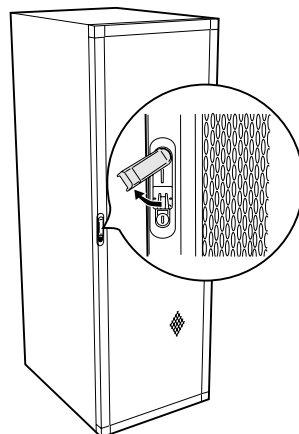


■ リアドアの開け方

- 1 ラックキーを左側に回し、ラックハンドルの下部（図中の矢印部）を押します。
ラックハンドルが前に上がります。



- 2 ラックハンドルを左側に回して、手前に引きます。



ポイント

- 通常の使用時（媒体の出し入れ、電源の ON/OFF 以外）には、ラックドアを閉めた状態でご使用ください。携帯電話などの外部からの電波を防ぎます。
- ラックキーは、紛失しないように注意してください。紛失した場合は、担当営業員に連絡してください。

3.2 電源を入れる

⚠ 注意

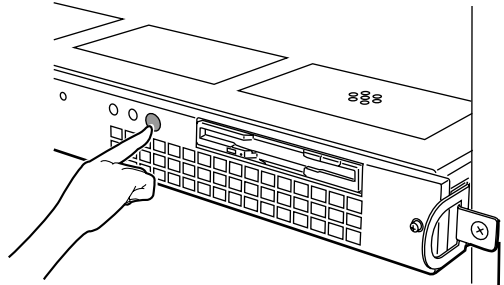


電源を入れたまま、持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。サーバ内部のハードディスクを損傷し、データを消失する原因となります。

- 1 ラックドアを開けます。
- 2 フロッピーディスクドライブおよび CD-ROM ドライブなどに媒体が挿入されていないことを確認します。
- 3 ディスプレイや周辺装置の電源スイッチを押します。
- 4 サーバ本体前面の電源スイッチを押します。

サーバ本体の電源ランプが点灯します。

電源が入ると、本サーバはサーバ本体の装置をチェックする「POST (Power On Self Test: パワーオンセルフテスト)」を行います。POSTの結果、異常があればエラーメッセージが表示されます。(「第11章 故障かな?と思ったときには」の「11.2 エラーメッセージ」を参照)



⚠ 注意

- 電源切断後、10 秒間は、電源スイッチを押しても電源は入りません。故障ランプが点滅します。再投入するときは 10 秒以上待ってから電源スイッチを押してください。
- サーバ本体環境条件の温度条件 (10 ~ 35 °C の間) でないと電源は入りません。スケジュール運転などで自動電源投入する場合も、動作保証外では電源は入りません。サーバ本体環境条件については、「2.2.2 設置環境および設置条件」を参照してください。サーバは動作保証温度内で使用しないと、「データの破損」や「動作が不安定になる」などの問題が発生する場合があります。サーバを動作保証範囲外で使用した場合の破損や故障が発生しても当社は一切の責任を負いません。

3.3 電源を切る

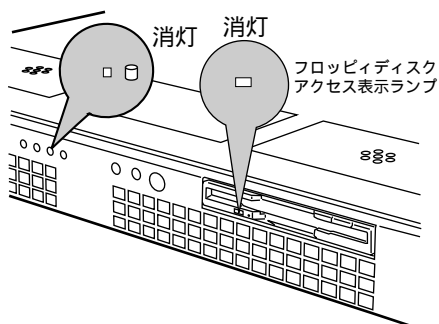
⚠ 注意

- 以下の操作手順で電源を切ってください。操作手順に反すると、データが破壊されるおそれがあります。
- 発煙、発火などの異常が発生した場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災・感電の原因となります。

- 1 フロッピーディスクドライブおよび CD-ROM ドライブなどに媒体が挿入されていないことを確認します。
- 2 OS を終了します。

終了後サーバ本体の電源が切れます。

その他の OS の場合は、OS を終了し、フロッピーディスクとハードディスクのアクセス表示ランプが消えていることを確認します。



ポイント

システムに異常が発生した場合、故障ランプが点滅している間に電源スイッチを押しても電源が切断されない場合があります。この場合、故障ランプが点滅している間に電源スイッチを4秒以上押し続けると、強制的に電源切断ができます。

- 3 ディスプレイや周辺装置の電源スイッチを押します。

本サーバでは、上記の電源切断方法以外に、電源切断の方法があります。詳細は、次ページの「■電源切断方法の種類とランプの表示」を参照してください。

■ 電源操作の注意事項について

- 電源スイッチを押してのシャットダウン、自動電源切断は使用できません。
終了メニューからシャットダウン／自動電源切断をしてください。
- システムスタンバイやシステム休止の状態にしないでください。
サーバで設定をしないでください。

■ 電源切断方法の種類とランプの表示

本サーバでは、誤操作による電源切断を防止するため、RAS 支援サービスで電源切断を制御しています。また、OS 終了後サーバ本体の電源が自動で切断されます。

以下に、電源切断方法と電源切断時のランプの表示関係を示します。

「安全に電源を切断するモード」については、「8.8.4 電源切断モード設定メニュー」を参照してください。

方法	安全に電源を切断するモードの設定	OSの動作	操作と故障ランプ	
			操作	故障ランプ
A (推奨)	有効にする	OS終了後	—————	○ 消灯 (*)
B (禁止)	有効にする	OS動作中	1 電源スイッチを押す。 2 電源スイッチをもう1回押す。	 点滅 ↓  ゆっくり点滅 ↓  もっとゆっくり点滅 ↓ ○ 消灯 (*)
C	無効にする	OS終了後	—————	○ 消灯 (*)
D (禁止)	無効にする	OS動作中	1 電源スイッチを押す。	○ 消灯 (*)

*) : 電源切断後、10秒以内に再度電源スイッチを押しても、安全のため電源は入りません
(故障ランプが点滅します)。

- 本サーバでは、A による電源切断方法を推奨します。

3.4 フロッピーディスクのセット／取り出し

フロッピーディスクのセット方法・取り出し方法は、以下のとおりです。

3.4.1 取扱い上の注意

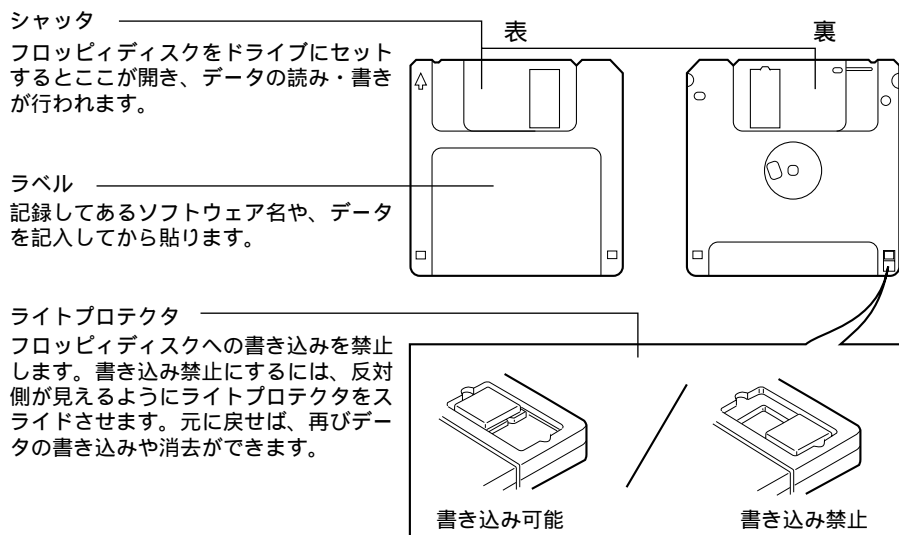
⚠ 注意



フロッピーディスクを取り扱うときは、以下の点にご注意ください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクに触らないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温／低温の場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください。

■ フロッピーディスクの外観



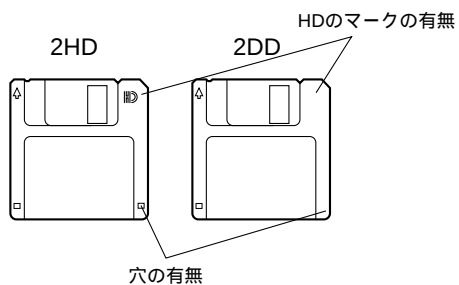


コラム

フロッピーディスクについて
本サーバでは以下の 2 種類のフロッピーディスクを使用できます。

- 2HD（記憶容量 1.44MB）
- 2DD（記憶容量 720KB）

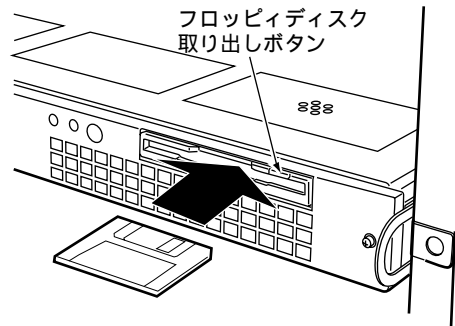
2 種類の外見上の違いは、図のとおりです。



3.4.2 フロッピーディスクのセットと取り出し

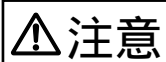
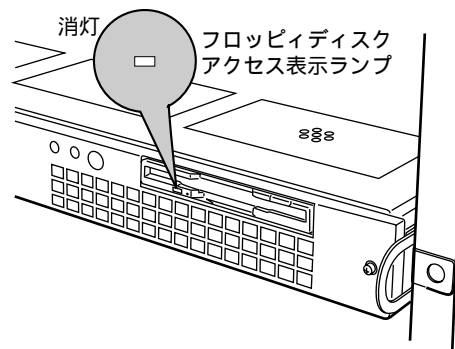
■ フロッピーディスクのセット

- 1 ラベルを上側に向け、シャッタのある側から、フロッピーディスクドライブに差し込みます。
カシャッと音がし、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出します。



■ フロッピーディスクの取り出し

- 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認して、取り出しボタンを押します。
フロッピーディスクが出てきます。



指示



フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中にフロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内部のデータが破壊されるおそれがあります。

3.5 CD-ROM のセット／取り出し

CD-ROM のセット方法・取り出し方法は、以下のとおりです。

3.5.1 取扱い上の注意



指示

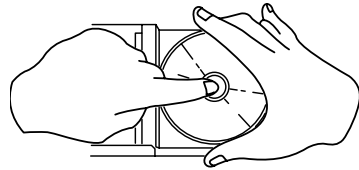


故障などを防ぐため、内蔵 CD-ROM ドライブユニットや CD-ROM を取り扱うときは、以下の点にご注意ください。

- 内蔵 CD-ROM ドライブユニット
 - 湿気やほこりや浮遊物の少ないところで使用してください。また、内部に水などの液体やクリップなどの金属類が入ると、感電や故障の原因となります。
 - 衝撃や振動の加わる場所では使用しないでください。
 - トレイには規定の CD-ROM 以外のディスクおよびディスク以外の物をセットしないでください。
 - トレイは、力を入れて引き出したり、強く押しつけたりしないでください。
 - CD-ROM ドライブユニットは絶対に分解しないでください。
 - トレイは使用前にきれいにしておいてください。清掃時は乾いたやわらかい布をご使用ください。
 - 長期間ご使用にならないときは、万一の事故を防ぐために CD-ROM ドライブユニットから CD-ROM を取り出しておいてください。また、CD-ROM ドライブユニットにほこりやゴミが入りこまないように、トレイを閉じた状態（ロード状態）にしておいてください。

- CD-ROM

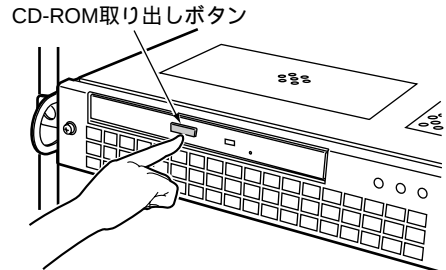
- ケースから取り出すときは、下図のように、ケースのセンターホルダーを押さえながら持ち上げてください。



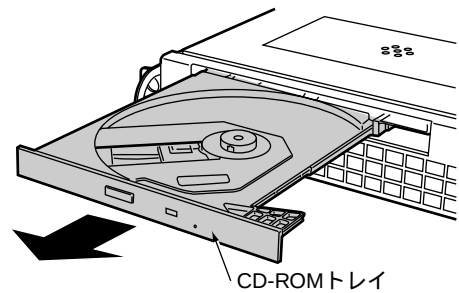
- CD-ROM の縁を持つようにして、表面に触れないように扱ってください。
- CD-ROM の表面に指紋、油、ゴミなどをつけないでください。汚れた場合には、乾いた柔らかい布で CD-ROM の内側から外側へ向けて拭いてください。ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
- CD-ROM の表面に傷をつけないように十分注意してください。
- 熱を加えないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- レーベル面（印刷側）にボールペンや鉛筆などで文字を書かないでください。
- レーベル面にラベルなどを貼り付けしないでください。編芯によって、異常振動が発生する場合があります。
- 屋外などの寒い場所から急に暖かい場所に移すと、表面に水滴がついて、CD-ROM ドライブユニットがデータを読み込めないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで乾燥させないでください。
- ほこり、傷、変形などを避けるため、使用しないときはケースに入れて保管してください。
- 直射日光が長時間あたるところや暖房器具などの熱があたりところなど、高温になる場所での保管は避けてください。

3.5.2 CD-ROM のセットと取り出し

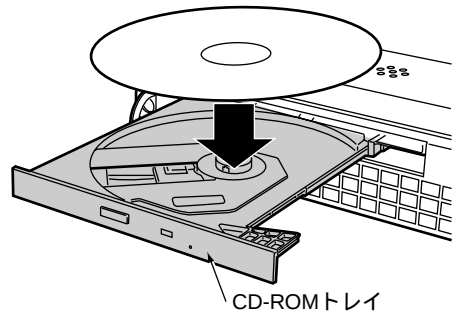
- 1 サーバ本体の電源が入っていることを確認して、CD-ROM 取り出しボタン（EJECT）を押します。
トレイが少し出ます。



- 2 出てきたトレイを引き出します。



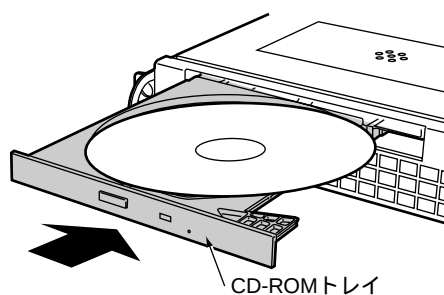
- 3 CD-ROM のレーベル面を上にして、トレイ中央に置きます。
トレイの下側を手で支えて、CD-ROM を「カチッ」と音がするまではめ込みます。



⚠ 注意

- CD-ROM の装着が不十分なまま CD-ROM トレイを閉めると、CD-ROM ドライブや CD-ROM の破損となるおそれがありますので注意してください。
- CD-ROM 装着時には、レンズに触れないよう注意してください。

- 4 トレイを戻します。
トレイが「カチッ」と音がするま
で静かに押し込みます。



取り出しも、上記のように CD-ROM 取り出しボタン（EJECT）を押して行います。



ポイント

本サーバの内蔵 CD-ROM ドライブユニットでは、下図のマーク
がついた CD-ROM をご利用になれます。

